

#1-1

プログラム名	ボウリング
会場名	芝浦会場(田町)
主任コーチ	米田 博之
参加アスリート数	登録者約 40人 (うち重度障害0人)
年齢構成	小学生(約2人)、中学生(約 1人)、高校生(約2人)、社会人(約35人)
ボランティア数	約20人 (うちファミリーが約 14人) 毎回約20人参加
年齢構成	大学生以下(約 人)、社会人・主婦(約 20人)、シニア(約 人)
アスリートとボランティアの触れ合い状況	一緒に準備運動をする。練習は、常にアスリートと参加し楽しむ。
競技指導のやり方	全て同じ練習。初心者には個別指導。マナーとルールを指導し、アスリートに無理のない技術指導を行う。
既存ボランティアの競技レベル	指導者レベル10人
既存ボランティアの参加頻度	出席率90%以上。
希望するボランティアの経験レベル	特になし。(プログラムの中で、3~4回コーチトレしています。)
ボランティアに希望すること・メッセージ	練習への参加、発表会(競技会)の運営
その他注意事項服装など	靴下は必ず履く。ジーパンは禁止。半袖のポロシャツ、Tシャツを着用。

#1-2

プログラム名	ボウリング
会場名	蒲田会場(イモン・ボウル)
主任コーチ	吉井 明一
参加アスリート数	登録者約 45人 (うち重度障害 0人)
年齢構成	小学生(約 1人)、中学生(約 1人)、高校生(約 1人)、社会人(約 40人)
ボランティア数	約 15人 (うちファミリーが約 13人) 毎回約 10人参加
年齢構成	大学生以下(約 人)、社会人・主婦(約 10人)、シニア(約 5人)
アスリートとボランティアの触れ合い状況	練習前後の挨拶の励行、準備体操・整理体操
競技指導のやり方	まずは、マナーを覚えて貰い、安全を最優先にする。経験の少ないアスリートには、楽しく参加出来るようベテランのコーチを配して、徐々に慣れ親しんで貰うようにする。
既存ボランティアの競技レベル	競技レベルに達しているボラは少なく3~4名程度。コーチ・トレを行いたいのですが、会場の関係で出来ないのが現状です。他会場のコーチ・トレに率先して参加を促しています。
既存ボランティアの参加頻度	毎回10名程度が参加。その他に保護者の方に受付などをフォローして貰います。
希望するボランティアの経験レベル	技術レベルは特に問わない。現在のコーチ年齢を考え、若い方の参加を期待します
ボランティアに希望すること、メッセージ	1クールに3~4回程度参加、アスリートと一緒に楽しく、少しずつ理解を深めて貰いたい。その他イベント等にも顔を出して、他会場の方とも交流を。
その他注意事項服装など	アスリートの保護者との対話を通して、状況の把握の参考として対応出来る様にする。ジーンズ禁止、ユニフォーム(ポロシャツ)着用。飲食禁止等。ブラインドの時は、なるべく早く担当者に連絡を入れる。

#1-5

プログラム名	ボウリング
会場名	高田馬場(シチズンボウル)
主任コーチ	金子 登喜雄
参加アスリート数	登録者約 58人 (うち重度障害 0人)
年齢構成	小学生(約 2人)、中学生(約 5人)、高校生(約 6人)、社会人(約 42人)
ボランティア数	約 28人 (うちファミリーが約 21人) 毎回約 15人参加
年齢構成	大学生以下(約 人)、社会人・主婦(約 20人)、シニア(約 人)
アスリートとボランティアの触れ合い状況	挨拶→体操→練習の流れの中で、積極的に話しかけ、アスリートの状態把握をする。
競技指導のやり方	アスリートのその日の状態、いままでの経緯、投球状況を把握して、ワンポイントアドバイスする。
既存ボランティアの競技レベル	プロ級の人から、2～3回の経験の人までいろいろ
既存ボランティアの参加頻度	1クール(6回)、3～4回
希望するボランティアの経験レベル	特に問わない。(初心者～プロ級まで)
ボランティアに希望すること、メッセージ	障害を持っているからといって、可哀想と思わない。最初は教えてあげる(指導する)ことよりも、アスリートと仲良くなることに努力する。
その他注意事項服装など	